

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 助教

氏名 志賀崇徳

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

実習において、病理学の講義で学んだ病変や疾患を実習組織標本観察や病理解剖で経験させることで、獣医学における重要な疾患を総合的に理解できるような教育を行う。研究室では、卒業論文の作成を指導し、研究計画の立案、実験遂行、データ解析を通して、科学的思考力を培い、成果を他者にわかりやすく発表する能力を伸ばせるように指導する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医病理学実習I	獣医学科	必修	4	143
獣医病理学実習II	獣医学科	必修	4	145
獣医病理学総論	獣医学科	必修	3	151
獣医病理学各論 I	獣医学科	必修	3	155
総合獣医学	獣医学科	必修	6	175
卒業論文	獣医学科	必修	6	10

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

獣医師には、動物疾病の診断と治療、動物生産、公衆衛生、医薬品の開発、生命科学研究など、様々な背景や役割が存在する。したがって、様々な立場の獣医師が高度な専門知識を共有し、大学で培った科学的思考力を活かして、経験したことのない問題にも果敢に取り組むことが望まれる。

実習では、獣医師として必要な獣医病理学の知識・技術を持つことに加え、それを応用して自ら考え診断する実践能力を持った獣医師を養成することを理念とする。

研究室では、症例の病理診断や卒業論文研究を通じて、研究計画の立案、計画的な遂行、データの解析、考察を主体的に行う能力を持った人材を養成することを理念とする。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

実習では、豚、鶏の病理解剖を少人数で班ごとに実施する機会を設け、その病理検査、病原体検査の結果を授業内で解説する。肉眼所見、組織所見、病原体検査結果を関連づけて学ぶことで、獣医学における重要な疾患を総合的に理解することを目標としている。病理組織標本の観察では、スケッチと写真を組み合わせることにより、診断のポイントとなる所見を抜き出し、説明できるようになることを目標としている。

研究室では、卒業論文の実験計画や結果について自らの考えを説明する機会を設け、教員や他学生とのディスカッション、進捗報告、学会発表を通じて、科学的思考力、プレゼンテーション能力を養うことを目標としている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習では例年通り、豚、鶏の病理解剖を少人数で班ごとに実施し、後日解剖した個体の病理組織標本を班ごとに観察することで、産業動物疾病の病理診断を実際に経験する機会を設けた。

(2) ICTの教育活用

有

実習では例年通り、病理組織標本のバーチャルスライドを疾病解説に利用した。Azamoodleを用いてオンデマンド型の動画配信を実施し、予習、復習のため、常時動画ファイルを視聴できるようにした。授業の理解度を把握するため、Googleフォームを用いて小テストを毎週実施した。さらに、病理解剖のVR撮影を実施して、教育コンテンツの充実をはかった。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

病理解剖の動画教材の作成は2023年度以降、継続的に取り組んでいる。また、重要な疾患の典型病変が入手できた際に逐次標本を追加し、病理組織標本のバーチャルスライドを更新した。

(2) 学生の理解度の把握

A

今年度は実習最終日の試験をパソコン教室で実施し、Googleフォームを用いたまとめ試験に加えて、鏡検試験にもバーチャルスライドを活用した。病理解剖の肉眼写真や病理組織標本をみて病変を説明できる能力を評価する総合的な試験を実施した。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

例年通り、講義資料をできるだけ早く掲示し、自学自習のための動画ファイル教材を提供した。これらは復習用に常時閲覧可能とした。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

例年通り、実習中に教員、ティーティングアシスタントが教室内を巡回し声をかけることで、質問しやすい環境を整備した。

(5) 双方向授業への工夫

A

質問だけでなく、実習への要望など、学生が積極的に発言できる環境を整備している。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

実習では、授業内に観察する標本の疾病に関連する国家試験の問題を紹介し、その疾病に関する知識の重要性を強調した。2023,2024年度は、総合獣医学の病理学総論を担当し、病理総論範囲の出題傾向の解析とそれに基づく勉強法について学生に指導した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

2024年度の授業評価では、一部の実習組織標本の枚数が足りないとの意見があった。2025年度は枚数の足りない標本のバーチャルスライドを追加した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

バーチャルスライドを追加した実習回については、観察標本について良い評価を受けた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

病理組織標本のバーチャルスライドのさらなる充実をはかる予定である。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

2025年度は実習中に観察する組織標本や試験の評価方法の改善に取り組んだ。今後は組織標本の病変を説明する「病理組織所見」の書き方についての指導を強化したいと考えている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からは「事前説明がとても丁寧でわかりやすく、自分で標本を見た時に何を見れば良いのか迷う、ということがなくスムーズに観察することができた」といった意見があった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

可能な限り研修に参加した。

参加できない場合は動画を後日視聴した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

短期的には、実習において学生の授業理解度を高めるように努めたい。

長期的には、専門家としての実践能力を持つ人材を育成するため、病理解剖実習の改善に貢献したい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

- ・ シラバス
- ・ 2022年度麻布大学教育改善プログラム
- ・ 授業評価